

行政視察報告書

経済地域委員会 行政視察		平成30年7月25日（水）～7月27日（金）
視察先 及び 調査事項	唐津市	九州オルレ唐津コースについて
	九州観光推進機構	九州オルレ推進事業について
	屋久島町	屋久島の自然環境を活かした観光振興の取組みについて
	屋久島環境文化財団	屋久島環境文化村構想推進事業（里めぐり推進事業）について
九州オルレ唐津コースについて		
これまでの来訪者（平成25年12月～平成30年3月）		
日本人：約8,800人 韓国人；約4,100人 合計；約12,900人		
平成30年に新たに2コースが加わり、現在、九州全部で21コースが存在する。		
「オルレ」とは、韓国済州島で始まり、「通りから家に通じる狭い路地」を意味する言葉である。		
トレッキングコースとして名づけられて有名になり、済州島への観光客数が増加している。		
山道や海岸線、民家の路地などを魅力を感じながら、自分のペースでゆっくり楽しみながら歩くのがオルレの最大の魅力である。		
平成22年（一社）九州観光推進機構が観光客誘致促進の為に取り組みをはじめた。		
平成24年 唐津市においてもインバウンド事業のメイン素材とすることを目的とし現地調査、コース及び推進体制づくりを進める。		
平成25年 コース申請後、認定を受け、九州オルレ第3次コースとして12月に唐津コースがオープンした。		
平成30年度唐津市オルレ関連予算 4669千円。		
所感		
コース認定には、いくつかの要件が満たしていなくてはいけないという事であったが地元の方々と連携をしながらコースを考え、整備していく事は改めて地元の立地等を知る機会となり地元と行政の協働作業が見込め、尚且つ、気軽に歩けるコース設定により子供や高齢者の参加が見込める。		
松本市としてのオルレコースは、山岳観光都市として模索していく必要性は感じたものの信州版オルレというような大きな視点から考えないといけないような気がする。		
九州では、九州地方全体でスタンプラリーを行っているが、旅費がかかりすぎて全コースを回るのに大変苦勞するのではないかと思うから松本市、長野県といった範囲で連		

携を図っていくのがベストではないかと考える。
観光客の消費単価や宿泊率が低いと聞いたが、観光名所と一緒に回り各温泉旅館とタイアップして、午前中はオルレ、午後は温泉宿で温泉に浸かり食事をして日帰り旅行の感覚で取り組めば徐々に宿泊も増加するように思う。
この事業は、松本市というより地元の協力なくしてはできない事業のような感じがするので35地区や各市町村の協力がうまく得られるかが重要になってくる。
九州オルレ推進事業について
九州観光推進機構
九州地方知事会と九州経済連合会、九州商工会議所連合会九州経済同友会、九州経営者協会から成る九州地域戦略会議で策定された「九州観光戦略」の実行組織として平成17年4月に設立された。
平成26年 体制強化、活動強化を図るために一般社団法人化を行う。
第二期 九州観光戦略を構成する「4つの戦略」
1、九州ブランドイメージ戦略 2、観光インフラの整備戦略
3、九州への来訪促進戦略 4、来訪者の滞在、消費促進戦略
所感
九州地域は温泉が多い地域として重要なコンテンツとして紹介をしているという事で長野県や松本市も温泉が多いのでコラボレーションできるのではないかと考えます。
地域のコースには、足湯を設置されている箇所もあり、各コースが温泉施設と連携しているそうなので松本市としても山と温泉の連携は楽しみではないか。
屋久島の自然環境を活かした観光振興の取組みについて
基本理念
エコツーリズムによる世界自然遺産「屋久島」の価値創造と観光立町
基本方針
1、 エコツーリズムの島「屋久島」から世界に誇れるワンランク上の観光まちづくり
2、 地域資源（ヒト・モノ・カネ）の融合による循環する仕組みづくり
3、 満足度向上につながる受入基盤・環境の整備と情報発信
4、 「島いここ」の精神によるおもてなし
5、 協働による広域的・横断的ネットワーク体制づくり
6 自然の鼓動を体感する火の島「口永良部島」の活用
所感
「雨の島」屋久島という事で雨天時に山岳観光ができない場合の為に海などの体験観光ができるように考えられている。

<p>松本市は、雨天時には観光できる箇所は多数あり、夏の酷暑、冬の降雪対策としては万全ではないかと思うが観光客が行き先を変更するような時の案内が今後の課題になるのではないかと思う。</p>
<p>山岳観光にはもう一つトイレの課題はつきものであります。</p>
<p>トイレ整備は行っているものの長野県と連携して十分な対応があれば観光客の急激な増加にも対応ができる。</p>
<p>屋久島環境文化村構想推進事業（里めぐり推進事業）について</p>
<p>屋久島環境文化村構想</p>
<p>屋久島環境文化村構想は、国際的にも学芸術的評価も高い屋久島の自然環境と自然を損なうことなく何千年にも渡って積み重ねられてきた屋久島特有の生活文化（これを環境文化と呼んでいます）を戦略的イメージとして掲げ、学習や研究によってその価値を見直す事を通じて、屋久島の自然環境の保全を図ると共に、自然と人が共生する屋久島ならではの個性的な地域づくりの試みです。</p>
<p>平成 3 年 屋久島環境文化懇談会設置</p>
<p>平成 4 年 屋久島環境文化村構想マスタープラン策定</p>
<p>平成 5 年 屋久島環境文化財団設立</p>
<p>平成 5 年 世界自然遺産に登録</p>
<p>平成 18 年 指定管理者制度の導入及び実施</p>
<p>平成 24 年 公益財団法人へ移行</p>
<p>屋久島 里めぐり</p>
<p>参加料金 1 人 1,500 円（小学生以上）所要時間 2～3 時間（コースにより異なる）</p>
<p>最小催行人数 1 人 定員 20 名程度（団体の場合は事前に相談）</p>
<p>所感</p>
<p>各集落には、独特の売りやシンボルや物語があり島全体を回れるように集落がある。松本市も人口減少社会の中で地域が埋没しないようにルート作りができれば面白い。ただ、その地点までいく交通網はよく考えないといけない。</p>
<p>総合的に、山岳観光都市として、各地区でトレッキングコースの策定というのは今後行っていく必要はあると思う。</p>
<p>平成 30 年 8 月 8 日</p> <p>松本市議会議長 上 條 俊 道 様</p> <p style="text-align: right;">委 員 若 林 真 一</p>